



? 誰のための サッカー場?

維持管理費はいつも、 あと出しジャンケン

■当初建設予算は通過していた。

正確にはサッカー場ではなく、人工芝グラウンドと呼ぶ。2014年に迫る長崎国体のサッカー競技会場として平成町の『雲仙岳災害記念館（通称がまだすドーム）』の南に隣接して整備される。2011年3月議会5億4千万円の建設予算が通過している。5億4千万が高いか安いか分からぬまま、国体の予算が出るとか、サッカー協会もカネを出すとかなので、強い反対はなかった。（松坂は当初予算は他にも決定的な理由根拠があって、反対したが。）

■維持管理費は事後報告

その競技場の使い方（指定管理者制度による管理）を決める条例が9月議会に提案された。そこで、この人工芝グラウンドの維持管理に年間1500万円ほどかかると言ってきたのである。サッカー場にはクラブハウスが出来て、そこが管理棟になりそこに3人の人間を配置するのである。僕だけでなく、他の議員（総務委員会）も一斉に「また天下り先作りか」とブーイング。

天然芝サッカー場なども併設の巨大体育館『復興アリーナ』から目と鼻の先、アリーナの管理室で十分管理できるし、災害記念館も実質島原市の施設なのだから（現に島原市や三市の部署が入り込んでいる。）管理室はそちらに置けば済む。トイレを作るぐらいで十分だし、場合によってはトイレも災害記念館のを使って十分間に合う。

■目的は天下り施設作り？

ここはやはり他の議員たちも口にしての通り、文化事業団等、指定管理請負い予定団体に便宜を図り、自分たちの退職後の天下り先を確保するためと見るのが自然である。国体やら青少年のスポーツ振興に名を借りて、悪質極まりない無駄遣いである。

もとより建設土木業者に反対する理由はない。

スポーツ関係者・財界・業者、そして他のサッカー場より安く設定する施設使用料なら利用する市民も反対はしないだろう。

しかし、年間維持管理費1500万円、使用料収入300万円を見込んでも1200万円の赤字。

人工芝は手入れが要らないから維持管理費用はゼロと思いきや、10年に一度張り替えなければならない。その人工芝張替え料は2億円だ。一年分換算で2000万円だ。つまり毎年3200万円払って、天下りを3人面倒見ようというわけだ。3200万円は市民の税金を充てますのでよろしく！と。しかも一度きりではありません。毎年毎年、競技場が存在する限り未来永劫ですぞ。

残念ながら当初建設段階で賛成した議員たちは、あとでこんなに維持管理費がかかると分かってても反対に回る勇気がありません。

当初予算段階で維持管理費にまで考えが及ばなかったことを恥じるわけです。後悔先に立たず、「当初予算で反対しなかったじゃないか！」と弱みに付け込まれるわけです。

市民皆さんは議員の力量不足を非難し、チェック機能を果たしていないと怒ります。おっしゃるとおり、議員は反省しなければなりません。

■本当に悪いのは行政の不作為

本当に悪いのは議員でしょうか？違います！本当の悪は真実を伝えようとしない行政です。知られたくない事柄を、隠そう隠そうとする、求められない限り絶対情報を出そうとしない役所のインペイ体質にあります。

そんな役人に同調する議員がいないとは言いませんが、ほとんどの議員は市民に選ばれています。市民と同じ程度の常識はあるんです。市民の常識を手玉に取り、網の目をくぐる役所の不作為が今一番の問題。役所改革が最優先課題と言われる所以です。